

もっと創意工夫が必要なのは

右記記事は読売新聞の一月十一日号の記事です。内容は日本産の天然サケは今ひとつ脂が乗っていないし、又塩味が少し効いている為に、敬遠され中国に輸出されそして加工され遥々ヨーロッパへ輸出されています。そしてヨーロッパで養殖されているサケは脂が乗っているために日本に盛んに輸入され、主に100円寿司のサーモンとして消費者のおなかの中に入ると書いてあります。読売新聞は、何かの疑問を私達日本人に警告を与えているのではないのでしょうか。確かに日本人は、塩分に注意しなければならないのは、昔からの2000年にも及ぶ食生活の歴史から、そうは思いますが、何でわざわざ天然を輸出して、養殖を輸入するようになったか私には理解が本当にしにくいです。現在の日本人は何か昔と比べて可笑しくなっていますか。木材資源では、北欧からホワイトウッドと言うエゾ松科の木材が輸入されそして集成材に加工され管柱に大量に使われています。日本には杉・桧で幾らでも管柱にできる木材は山の様に存在しているのです。何故杉・桧を使わないのですか。杉・桧の方が、家屋が長持ちします。しかし現在のプレカットは効率主義になっています。本当にそれで良いのでしょうか？何故食品と同じ様に輸入材を多く使うのか、消費者の立場になって考えると理解に苦しみます。



創意工夫すると何故か誰かが叩く

右の記事も読売新聞の一月十七日の記事です。内容は府立高校の先生が創意工夫をして、子供たちの為に土曜日の休みの日に授業を催しているのですが、教育委員会は土曜日に授業するのは、規則違反というのです。確かにコンプライアンス(法令順守)は当然の世の中ですが、折角の努力『私学は土曜日でも授業が有り、学力差をこれ以上広げない努力』も報われないのです。何故日本人は何で、一つの縛りで全てを拘束するのでしょうか。コンプライアンスと創意工夫は相容れない事では有りません。

金持ちの子供たちは授業時間が豊富な私学に行き、一般の庶民の子供達は授業時間が短い公立学校に行くのです。実際に一年間で約30週X四時間合計約120時間の授業時間の差が付くのです。これで益々格差社会に陥るのではと、心配します。

教育問題は、どういう理由でコンプライアンスと創意工夫を誤って考えるのか、私は本当に疑問に思います。

ところで、この間ある建築士の方からお電話頂きました。内容は合板を取り寄せられないかという話しです。私は話「取引先の工務店が手配出来ないと言うのです」を聞き、建築士さんにアドバイスをしました。合板は非常にタイトですが、物は有りますので建築士さんが、合板の値上がり分を何らかの創意工夫して頂ければ上手く行きますよと言いました。私が動くとしてプラスになりませんとも付け加えました。その理由は例えば100枚しかベニヤが入らないのに、そこに二社の業者が存在していれば、そこから問屋への話しは倍の200枚になります。そして揚句の果て輸入商社にまだまだ値上げしても売れるのだと誤解を与えますよともお答えしました。そして何にも連絡が来ない事は建築士が私の言った事を、聞き入れてくれて創意工夫して頂いたのと、思っています。建築請負契約を結んでいるので、こういう値段が急ピッチで上がる状況は、本当に工務店さんも緩くは無いと思います。この資材の値上がりはまだまだ続きます。

我々木材に携わる人間は創意工夫はもっともっと必要です、木材価格の高騰はまだまだ続くとお思いますので、如何に木材を上手く有効利用し、お施主さんにとって素晴らしい本当の家作りをしている建築士に上手く木材を使って頂きたいと思っております。



2007年の木材需給状況

北米地区

アメリカは東海岸と西海岸に大きな輸出ソースが有ります。東海岸は主に広葉樹です。西海岸は針葉樹です。西海岸の木材業者は大手ばかりです。西海岸地区は主に私有林（農家）が原木の生産業者です。東と西を比べると西海岸側のシッパーの方が圧倒的に力は有ります。

西海岸から説明すると、日本に木材を輸入している商社は、並材と色物の両方を買っています。現在、並材は凄く売れています。そして値段は大幅に値上がりしています。しかし色物は大変苦戦していると商社から聞いております。

東海岸は、ホワイトオーク・ブラックウオールナットの二樹種が大変値上がりしています。それ以外は大体横ばいです。

ヨーロッパ地区

ヨーロッパは現在アメリカより経済が全体として堅調です。その為、ユーロ高になっています。それでヨーロッパは多くの材を買付けしやすくなっています。特に経済制裁で混乱しているミャンマーはヨーロッパに多くのチーク材を輸出しています。現地価格はそれほど値上がりしていませんが、ユーロ高の為に日本は非常にチークが買付けしにくい状況になっています。（ミャンマーはユーロ決済で輸出しています）

ところでヨーロッパの木材資源は多く有ります。オーク・アッシュ・アルダー・ビーチ等各材質は揃っています。しかし品質の割りに値段が高いのです。従ってアメリカ等の各国から材木を買付けるのです。

その中で唯一あまり需要がないのがヨーロッパビーチ（ブナ）です。ビーチは埋蔵量もかなり有り、世界各国に輸出しています。本年はヨーロッパがアメリカからホワイトオークを大変多く輸入している為に、アメリカのホワイトオークの価格は値上がりしています。**【今のヨーロッパは日本より価格決定権が有ります。】**

インドネシア・マレーシア地区

木材資源は確かに枯渇しています。資源の量以外の要素、木材の輸出する時の、レギュレーション（法規）の変更等で輸出量が減って来ているのも事実ですが、物凄く供給はタイトになっています。一般に合板の品薄は解ると思いますが、それ以外のメランティ（ラワン）・メラピー（マガシロ）・ニヤトー（南洋カウ）・ペルポック・アガチス等の主要樹種は軒並日本向け輸出は減ってきています。

南洋材の特徴をあげます。それは合板に剥ける樹種は、少々板の値段が上がってもなかなか製材品では出してくれないのです。合板にすれば歩留まりは80%以上です。製材品は約40%位です。倍近くの差が歴然と有るのです。したがって製材品より合板を輸出したがるのです。

アフリカ地区

アフリカ材と聞けば直、頭に浮かぶ言葉は、巾広の板と連想します。主な樹種はズビンガ・アパ・アユース等ですが、しかし10年昔と比べると原木の小径化はかなりのスピードで進んでいます。10年前は直径2メートル前後の原木はごろごろ有りました。しかし現在は本当にこのクラスの原木は減りました。

アフリカはヨーロッパに近いので、日本ペースで事は進みません。あくまでヨーロッパ主体です。例えばアユースは原木の産地はカメルーンですが、原木をわざわざイタリアに持って行き、製材して日本に輸出されているのです。しかし製材品より合板の方が現在得なので、製材品の日本向けは、為替のせいも有り入ってくる数量は激減しています。**【アフリカ材はヨーロッパが実権を持っています】**

日本国内

国内は杉・桧は無尽蔵とは言いませんが、相当量伐採時期に来ているスギ・桧材が多く有ります。構造材だけなら十二分に国内材で賄える量は有ります。合板にしてもラワンから杉にシフトすれば十二分に賄えると思います。しかし広葉樹は、資源量は枯渇しており今後も輸入に頼らざるを得ないと思います。

特に日本しかないマカバ・セン・ホオ・カツラの四樹種は、確実に供給が減ってしまっており、他の樹種に変わらざるを得ないです。**【国内材の希少価値材は考えて使って欲しい】**

中国・ロシア材

中国材として流通している材は、実質ロシア材です。去年の11月からロシア産の原木の輸出関税が大幅に上げられ、そして国策でタモもナラも同じ現地価格にするようにと政策変更がされました。確かにタモ原木の値上がりは、我々の予測より早いペースで上昇してきています。特にツキ板向けの原木は倍近くに値上がりしています。それにつられ製材用原木も30%以上値上がりしています。

又並材の赤松・エゾマツ等も凄い価格高騰が続いています。

木材価格全体動向

木材価格は確かに値上がりしていますが、**しかし過去のピーク昭和52年までは、まだ全然行っていません。**我々もどこまで値上がりするのかは、解りません。解っていることは、今までは世界の木材需給関係で、日本が主導権の有る立場でした。しかしこれからは違うと言う事だけです。木材資源を大事にする事が、望まれています。そして我々日本人は国内の植林材を活用する事が大事だと言う事だと思います。

施工業者の苦しみは手抜きに繋がらないか

今の木材価格の高騰は、一昨年(2021年)の11月から始まりました。それは合板が始めでした。しかしその当時これほど値上がりするのかは、誰も予測してなかったです。従って建築の注文を受ける業者の人なら、2年位前に建築請負契約を結んでいる方は、仕事をすればするだけ損が発生する状況が、現在進行しています。特に木材のうち工業化商品である合板がこれほど値上がりしてくれば施工業者の悲鳴は凄いと思います。又木材は先物取引と言う物が無いのでリスクをヘッジできないので、よほどの事が無い限り、何処かで手抜きをしなければ儲けが無くなると思います。

地球温暖化と木材

地球温暖化を本当に実感できる本年で有りました。

右記新聞は読売新聞の2月3日号ですが、もしこのまま、温暖化対策をせずに、手を拱いていれば東京・大阪の高潮対策だけで7兆円も掛かると書いていました。

我々日本人は京都議定書の批准国です。我々一人一人が創意工夫をしなければならないのではなかろうかと考えています。

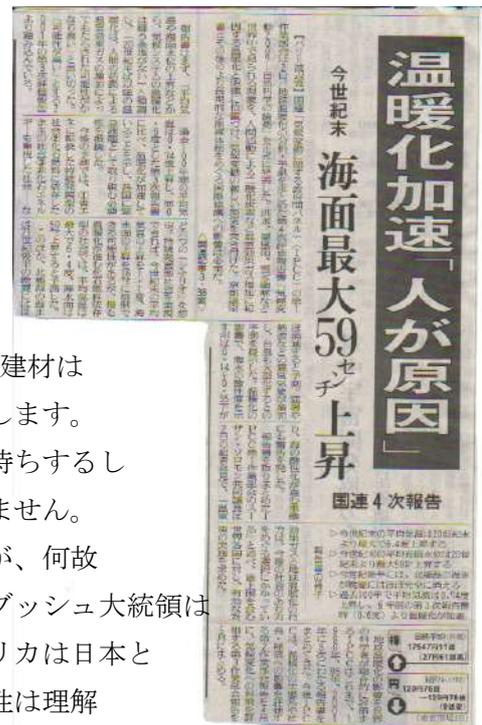
私は、無垢の木材を使ったら、地球温暖化対策にならないのかと考えています。(計画生産材に限る) その理由は、石油製品で出来た建材は化石燃料を多く消費し、又修繕するにしても又化石燃料を多く消費します。しかし無垢の木材は、その物自体がCO2を中に含んでいるし又長持ちするし仮に修繕するにしても、人件費は掛かるが、多くのCO2は消費しません。

ところでアメリカ政府(共和党)は京都議定書に反対していますが、何故民主党のゴア副大統領が日本にきているのでしょうか。その理由はブッシュ大統領は反対でも、アメリカ人全てが反対では無い証拠だと思います。アメリカは日本と違い、同じ不良債権問題での、解決のスピードを見れば本当の民族性は理解できます。エクソン・モービルが本年度環境対策に相当のお金をつぎ込むのです。この意味する所は、私にはアメリカは本気になれば、すぐ環境問題に対応しようとしている証拠だと思います。

我々日本人は2000年の歴史の有る民族ですが、環境問題は一番得意なジャンルでは有りませんか。法隆寺等の木造建築物は、厳然と今でも存在しています。その木造文化を大事にしようでは有りませんか。

服部商店は『無垢の木』をふんだんに使う事が地球温暖化対策にならないのかと、思っています。

木に携わる商社・材木屋・木工所だけでなく、建築士・工務店全ての人の力を結集すれば地球温暖化対策の一躍を担えるのではと、考えています。



職人（技術者）をもっと使って下さい

私の得意先の種田商店（襖の職人）を紹介します。和歌山県で襖の仕事をしています。現在息子さんが後を継いでいます。上手く技術伝承が出来たのですが息子さん曰く、まだまだ親父の域までは達していません。との事です。

ところで現在の木工職人は構造不況の為（良い仕事が本当に少ない）に、本当に後継者が後を継げないのが現状です。

そんな事で良いのでしょうか。確かに家その作り方が変わり、ある意味必要無いと仰られる建築士さん

もおられますが、しかし30代で家を建てたととしてもその方は必ず歳をとり、必ず老人になります。その時に、寛げる純和室の部屋が欲しいと言われ、リフォームしたいと思っても、技を持った職人がいなければ、それは実現出来ないのです。日本の2000年の歴史の成り立ちの中で生かされている我々は、2000年の歴史から見たら、今の時間は一瞬です。代々伝わってきた技を我々の時代で消滅させてよいのでしょうか。

私は良い仕事が有れば、どしどし出してくださいと思います。そうすれば職人は育ちます。実際良い仕事が少ない事が、後継者が育たない一番の原因だと思っております。



建築には色々な方法が有る

服部新聞を読まれている東京の渡辺武信様から、大変貴重なお手紙を拝見しました。中身は私が先々月号で、取り上げた『良い家が欲しい』の本に対するアドバイスで有りました。

具体的には断熱の方法には、色々な方法が有り、必ずしも外断熱がオールマイティではないよ、と言うお話しでした。

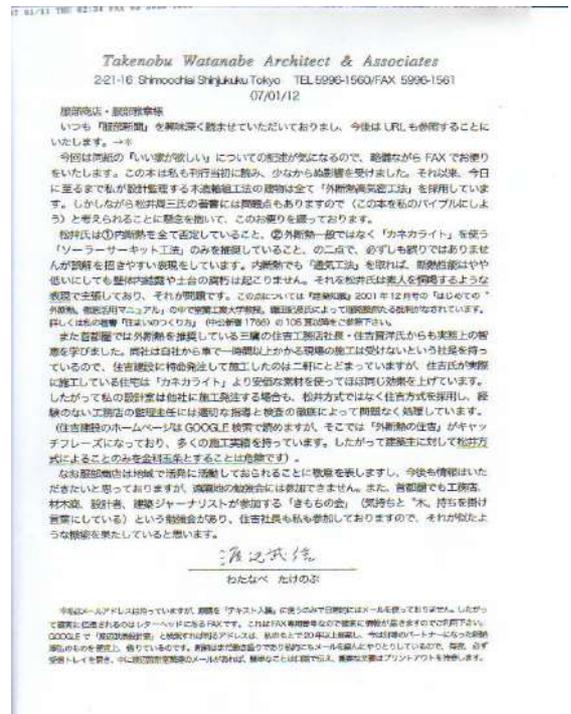
実際私は、自分の家を来年外壁の塗り替えをしようと考えています、その時に断熱の方法を、変えようかと考えていますので渡辺建築士様からのアドバイスは、大変良い忠告になりました。と言うのは私も、テレビの影響で直納豆ダイエットをしてしまいました。つまりある意味、熱しやすく冷めやすい性格なのです。所謂日本人に共通の性格なのです。

ところで渡辺建築士が、私にお手紙を頂いた事の中で、別の意味で感じた事が有りました。それは納豆ダイエットの流行ではないですが、〇〇ハウスメーカーはテレビコマーシャルで、もう外断熱の家だから万能と言う様な表現を取っているのです。

家は普通の人は大抵一度の買い物です。車みたいに買い替えは出来にくい物です。だからもっと慎重に消費者は家を買わなければいけないと思っております。私が『良い家が欲しい』と言う本の宣伝をするつもりは有りませんので誤解しないで下さい。私は色々な方のお話を受け賜れる事を本当に幸せに思っております。

この約二年で素晴らしい建築士に出会いました。凄く良い話を聞かして頂きました。これからも色々教えて頂ける事を楽しみにしています。

私事では有りますが、私には素晴らし工務店の仲間がおります。そして来年自分の家を築後20年の為に大々的にリフォームをしなければなりません。私は建築士からアドバイスを受けた事を実践するつもりです。しかし私みたいに建築士から色々御意見を賜れるのは、世の中でそんなに多く無いと思います。多くの消費者の皆様は建築物・家作りとは、気軽に聞ける何か良い機会が作れたら良いなーと感じています。



無機塗料・パーフェクトコート

ところで、私が先月号で取り上げた建築の補助商品【パーフェクトコート】は素晴らしい商品です。潮風に凄く強いのです。ガラス皮膜が腐食を防ぐのです。塗布すれば耐用年数は約倍になるそうです。右記写真は服部商店本社の事務所の下屋部分の写真です。塗り直そうと計画しているのですが、会社の前はすぐ海です。潮風がまともに当たります。今まで通りに塗ったら20年持たないのです。(築13年です) 普通、私達消費者は、大きな修繕の時期の目安は大体20年と考えています。しかし右記の状態では20年経つと下が腐食し補習費用は物凄く高く付きますし、建物の目立つ場所なので、とても見苦しくなります。そういう場所に塗布して頂くと長持ちし本当に喜ばれると思います。

又この商品は違う部材が、隣り合っている場所(右記の写真・鉄とタイルが隣り合う)に、塗布することもメリットがあります。右記の様な場所は凄く、痛みが目立つのです。タイルと鉄では劣化の程度は変わります。素晴らしい設計をした建物が少しの手間で、後の補修が安く出来き、そして劣化が遅ければ、お施主様は大変喜ぶのではないのでしょうか。

弊社は、パーフェクトコートの実証試験を、自分なりに考えて行いますそれは、同製品を、塗布した場所に、塗布していない物を置き経年変化を確かめる事です。弊社の本社は、非常に過酷な条件を満たしているのです。結果は直に出ると思います。この試験の経過を、服部新聞でもお知らせします。



第一回勉強会

平成19年2月3日に服部商店本社にて第一回勉強会を、催しました。参加者は10名でした。タモ原木長さ4メートルの径64センチの原木を製材しました。その製材の方法を見ていただきました。



勉強会にてタモ原木を製材しましたが次の様な流れで説明しました。

- 1、本木（ほんき）を見る。曲がり（台車に乗せると直材の原木も多少曲がっている）を見る。
- 2、原木の胴割り。原木の末の木口と元の木口を合わせてそこに鋸を入れる。
- 3、板の製材。二つ割した原木を側から製材していく。
- 4、板の耳断ち。耳が付いた板を耳を落としていく。
- 5、寸検。一枚ずつ厚み・長さ・巾・仕様等の情報を板に明記する。

以上の五項目を一つ、一つ御説明しながら、原木の製材から寸検まで見て頂きました。

参加者は、建築士さんが6名、家具作りの工房の方3名、木工所の方1名の合計10名です。私が工程を説明しながら、進めました。本木（ほんき）とは何かとか、原木の胴割りとは、どう言う手順で行うのとか、板はと言う木目で出てくるのかとか、どうして耳を断つのか、寸検方法とはと言う事ですとか、詳しく解り易く御説明致しました。

建築士さんからの質問は以下の通りでした

- 1、この原木は何時頃伐採したのか？
- 2、原木の胴割りの時（二つ割） どうしてバックするのですか？
- 3、原木（タモ）を製材するとき外面だけで節等の欠点は解るのですか？
- 4、板の耳を落とすときその端材は何に使うのですか？
- 5、板に虫が入るのは何時頃ですか？
- 6、今製材している材は何時ごろ使えますか？
- 7、注文したとき使える材は有りますか？
- 8、元木と次の二番木、三番木はどうして見るのですか？
- 9、耳付きの盤に虫が入らない様にするにはどうするのですか？

と言うような色々な質問が有りました。ひとつひとつ詳しく説明しました。

木材の実際の事を肌で感じて頂け少しでも御理解を賜れたのではないかと考えております。

そして休憩を兼ねて、服部商店の2Fに場所を移し、お茶を飲みながら座談会形式で、質疑応答をしました。有意義なお話しが出来、具体的案件を交えて積極的に各自の立場より意見交換が有り、我々も教えられる事も有りました。

ところで話しの中で私がプロの材木屋として関心が有ったのは、どうしたら木は反らない様に出来るのかと言う事でした。その質問にプロの木工所の社長が、木はどうしても多少は、狂います。しかし狂っても後々使い勝手が、損なわれない様な、作りつけをすれば、良いのではと仰っていました。又建築士さんからは、無垢を使う以上、多少の狂いは、お施主様に十二分に説明するのが、責任有る者の仕事では、有りませんかとも仰っていました。

又これからも勉強会を催そうと考えています。暖くなる6月位にしようと思っております。その時何が、良いかを色々な方からお聞きし、催そうと思います。



何時でも木材は有りません。木材には旬があります。

木材資源は、適切な伐採期があります。

南洋材

右記写真は私が1997年にマレーシアのクダットに行った時の写真です。樹種はジュルトンです。

南洋材は、伐採期は、乾期です。雨期には伐採出来ません。従って一年の内大体半年間と言えます。

しかし昨今の異常気象のせいで、乾期にも雨が多く降ったり、逆に雨期に降らなかったりしている事も有りますので、非常に供給はタイトになっています。



温帯広葉樹

広葉樹は、主に冬場が伐採期です。右記写真は檜の立ち木です。(北海道・静内)夏の盛りで葉が生い茂っています。伐採時期は、木から葉っぱが、落葉して木自信が眠りに入った時期が旬です。

確かに夏場も、伐採している材も有りますが、夏場に伐採すると色の悪い商品が出来てしまいます。

アメリカの東海岸側つまり五大湖周辺地域もヨーロッパも日本も全て同じ冬場が主な伐採時期です。



温帯針葉樹

日本の針葉樹は、一年中伐採は出来ます。勿論日本みたいな気候が温暖な所は、一年中伐採は出来ます。

温帯針葉樹（タイガ）

アラスカ等の極寒の針葉樹は、真冬伐採はしにくいです。しかしロシアなどは伐採しています。(大体年中)しかし海が凍りつくアラスカは冬場は伐採しません。しても海が凍っており輸出が出来ないから伐採しないのです。伐採時期は、春から秋に掛けてします。そして輸出されて日本に入ってくるのが大体5月の連休明けが第一船になり、そしてで最終が明るる年の1月末くらいです。

右記写真はアラスカ産のスプルース原木です。去年の7月に入った材でアラスカ産の第二便の船です。アラスカ産スプルースのいわば旬の時期に当たります。



我々木材業者は、一般消費者から見て、木材は、いつも必要な時期に買うことが出来る様に思われているかも知れませんが、決してそんなことは無いのです。それぞれ木材は旬が有るのです。又旬以外の時期に買った材は(例えば原木を例にとれば、原木の命は新鮮さなのです)良く有りません。原木が古くなれば、値段は安くなります。しかし原木のしな痛みは我々プロでも、悔った時は、大きな損を招くことが有ります。従って服部商店は必要な材を必要な時期【その樹種における旬】に買い付けしています。年中手当てしています。

赤字出血商品（売り切れ御免商品・品傷み商品ではございません。）

イタヤフローリング（ユニタイプ）

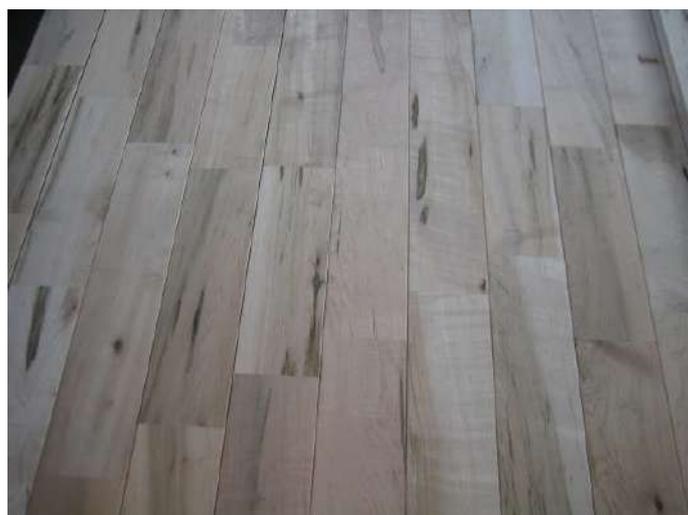
（無塗装・色ムラ有り）

15X75X1820

27束のみ 1束（12枚入り）

44平米

@2,800円/平米



ナラフローリング（ユニタイプ）

塗装品（ウレタン）

15X90X1820

41束のみ 1束（10枚入り）

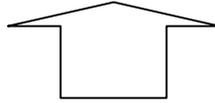
72平米

@3,600円/平米



中国製フローリングは、為替・現地の輸出関税等の影響で10～15%以上値上がりしています。
上記2種類は売り切れ御免商品です。





FAX番号072-422-8577

アンケート

Q1、 又勉強会をしたいと思います。興味が有りますか。

はい

いいえ

Q2、 Q1ではいとお答えした方に。

勉強会のビデオ（DVD）が有ります。参考までに欲しい。

はい

いいえ

Q3、 是非して欲しい企画が有りますか。

(

)

御社名	
ご担当者名	
電話番号	
FAX番号	

株式会社 服部商店
大阪府岸和田市木材町16-1
TEL 072-438-0173
FAX 072-422-8577
担当 服部雅章